



樹里安だより

ジュリアン

2004年1月
Vol.14



.....安行の名所（その一）

西福寺《川口市西立野420》

真言宗豊山派の寺で、弘仁年間に(810~824)弘法大師が国家鎮護のため創建したといわれる古刹である。開山は不詳。西新井宿宝蔵寺の末寺。寺内には三代将軍家光公の長女千代姫が奉建した三重塔や「百觀音」として知られている観音堂などがある。



川口市保存樹木を訪ねて その14

青木氷川神社の

ムクノキ

(川口市青木5-18-48)

5月の下旬、青木氷川神社に行ってみた。近隣には閑静な住宅街や川口オートレース場・青木中学校などがある。この神社は創建年代は不詳であるが、中世川口の交通の要所であったこの地に武蔵国一ノ宮大宮氷川神社より分祀勧請したと伝えられている。

境内には4~5mほどの富士塚がある。螺旋になっている石段を登ってみる。サツキが初夏の訪れを告げるよう咲き乱れている。この富士塚は江戸時代末期の万延元年(1,860年)造られた。富士・浅間信仰は江戸時代に大流行したが、当時は簡単に富士山に行けるものではなかった。そこで富士山に登りたくても行けない人々のために造られた。この山に登ることは富士山に登ることと同様のこととされ、安産、子育て、厄除、病気平癒などの心願成就されるそうだ。

今回の主役、ムクノキは境内の中心の少

し土が盛り上った所にある。まさにシンボルといった感じだ。その姿は凜々しく、神社の歴史を支えてきたせいか独特な雰囲気がある。

ムクは葉の表面がざらついていることから昔から物を磨くのに使われ、寺社の境内や道路端、公園によく利用されている。山地に自生するものも多い。この木の名前の由来はムクドリが大好物だったことから名前がついたそうだ。神社で遊んでいた子供たちがこの木の前に来て見上げている。「遊ぼうよ」とでも声をかけられたのか、しばらく会話を楽しんでいる感じであった。この子達が大きくなったら今日の1日が思いでの1ページになるのだろう。

5月のさわやかな風の中、陽光が新緑の美しさを演出していた。



ムクノキ Aphananthe aspera Planch.

ニレ科ムクノキ属

- 分布：関東以西の日本列島 朝鮮半島 台湾 中国大陸に分布する。
- 高さ：20m幹周り 3 mになる落葉広葉高木
- 用途：材は強靭で器具、建築、船舶などの用材にされ、粗面の葉はで骨・角細工などの研磨に用いられる。
- 陽樹～中庸樹：萌芽力旺盛・耐風性あり・耐潮性あり・深根性・生長速い
- 4月～5月に開花：淡緑色の小さな花をつける。葉は互生し長さ 5～10cmの卵状披針形。果実は10月頃に紫黒色に熟し甘い。ムクドリが好んで食べたのでこの名前がつけられた。ケヤキに似た雄大な樹形をつくる。



青木氷川神社の保存樹木

樹種	科名	指定年月日	指定番号	所在	幹周	樹高
ムクノキ	ニレ	H12.9.1	31	青木5-18-48	2.7m	20.0m
ケヤキ	ニレ	H12.9.1	171	青木5-18-14	2.5m	19.0m

樹種
紹介

オオデマリ “ピンクセンセーション”

オオデマリというと皆さんには白い雪のような花というイメージがあるかもしれません。春のお庭にかわいらしくアジサイのような形でボリュームのある花をたくさん咲かせます。ガーデンセンターでもよく見かけ、ガーデニングの素材としてもよく利用されています。

今回紹介するのは、オオデマリの園芸品種の“ピンクセンセーション”です。名前ほど鮮烈なピンク色ではないですが、どこか心を癒してくれるような色をしていて、お庭の和風・洋風問わずに利用できます。



オオデマリ “ピンクセンセーション”

スイカズラ科ガマズミ属

- 落葉広葉低木
- ヨーロッパで品種改良されて日本に戻ってきた。
- 開花期：5月～6月
- 樹 高：1m～3m
- 葉は対性で、広楕円形、鋭尖、鋸歯がある。厚葉で表面にしわがある。
- ヨーロッパで流行している。
- 特 性：全国の日なた、半日陰
- 植え付け：落葉中に行う。東京以北では春植え。植え穴には堆肥をすき込む。
- 剪 定：新梢は翌年の花芽がつくため切らずに残す。4～5年たった枝は切りもどして新しい枝に更新する。
- 施 肥：2月頃、株の周りを掘って堆肥をすき込む。
- 病害虫：アブラムシなどが発生したらマラソン乳剤などを散布して駆除する。

資料提供：(社)日本植木協会青年部埼玉支部川口青年部

七草粥に始まり、小正月、節分、桃の節句など、年中行事はわれわれの生活にとけこんでいます。このなかには、今はもう廃れ見られなくなったものもあれば、クリスマスやバレンタインデー、母の日のように新たに定着したものもあります。しかしながら、時が移るにつれて、これらはさまざまな変容を遂げ、今では、その由来や意味も薄れているものも多いです。

(1) 五節句 ごせつく

季節の変わり目に祝いをおこなう日を節日といいます。その日の供物を節供といったそうです。後味のある節日そのものを指して節供と呼ぶようになりました。江戸時代になって、武家や農民に意味のある節日を選んで幕府が節供を定めました。一年間の重要な節供は、明治以降は公式な行事ではなくなったが、民間の行事として、3月、5月、7月の節供は今も行われております。

その1 七種の節供

陰暦1月7日の朝に七種粥を祝う風習。平安時代に、宮中で七種の穀類でつくった七種粥を正月15日に食べたことに由来します。七日正月の風習を取り入れ、また、七種の若菜を雑煮にして食べる中国の人日の俗信にちなんで江戸幕府が定めました。七草の種類はいろいろな説がありますが、現在では、芹(セリ)・薺(ナズナ)・御形(母子草)・繁縷(ハコベラ)・仮の座・菘(スズナ)・清白(スズシロ)が用いられることが多いようです。



その2 桃の節供

陰暦3月3日の雛の節供。古代中国の禊祓いや曲水の宴の風俗行事が伝わったものです。曲水の宴 자체は廃れたが、人形を用いて体を撫で、それを水に流してけがれをはらう行事は残りました。この人形が発展して雛人形となりました。室町時代以降、民間では女児の祝日として母子草や蓬などを入れた草餅を食べ、桃の花を浮かべた桃酒や白酒を飲む雛祭りに変わっています。女の節供ともいいます。





記念樹にふさわしい木とそのいわれ（その1）

結婚祝い

ウメ

ばら科 サクラ属（落葉広葉樹・小高木・陽樹）



松竹梅に数えられる、めでたい樹木の代表で、結婚の記念植樹には最適の縁起木。万葉集ではサクラをしのいで多く詠まれている。厳しい冬に耐えて真っ先に咲き始め、しかも誇らぬ花容と香りが、春ごとに人の心を打つ。実を梅干しにすれば何年でも腐らぬ持久力を発揮するなど、情緒と実利の両面で、日本人の心をとらえて離さない。黒ずんだ老梅の枝に咲く清楚な花は、日本画の変わらぬテーマでもある。

1. 特徴

開花期2～3月、結実期6～7月。生長は遅い。紅色の花を楽しむコウバイや、花も実も楽しむブンゴウメやシラカガなどの品種がある。

2. 植えるときの注意

時期：11～12月・2～3月

場所：日当たりが良く、適温で排水の良い所を選び、土には有機質の肥料を豊富に与える。

3. 管理のポイント

花や実をよくつけるには、新しく伸びた徒長枝のせん定を夏と冬に行い、どの枝にも日光がよく当たるようにする。

《他の木》

サルスベリ 落葉広葉樹・高木・陽樹

ツツジ 常緑／落葉広葉樹・低木・陽樹

ライラック 落葉広葉樹・低木・陽樹

モモ 落葉広葉樹・小高木・陽樹



参考：日本緑化センター 木を植えよう 記念樹にふさわしい木とそのいわれ



川口緑化センターの主なイベント（結果報告）



第56回春の安行植木まつり

平成15年4月12日(土)～13日(日)

市内の植木業者が出店し、たいへんにぎわいました。広場では、河川で刈った草や街路樹を剪定した枝を使用したコンポスト（堆肥）を配布し人気を博しました。アトリウム内では生け花の展示、屋上緑化の素材として注目されているマット植物の展示、植木の新品種紹介などをを行い来場者の緑化の普及・啓発を図りました。



第2回駒込・安行植木まつり

平成15年4月26日(土)～27日(日)

植木の生産地として安行の先輩でもある駒込との地域交流の一環としてJR駒込駅前の染井吉野桜記念公園において「第2回駒込・安行植木まつり」を開催しました。都心の人々は植木や草花への関心が高いようで、園芸に関する相談が多数ありました。安行の植木をおおいにPRしました。



さつき盆栽展

平成15年5月24日(土)～6月1日(日)

開花時期であるさつき盆栽を展示販売しました。花がたくさんついたさつきは豪華で見事の一言でした。



初夏の盆栽展

平成15年6月14日(土)～15日(日)

五葉松・真柏・ザクロなどの盆栽を33点を展示しました。樹形の美しさ、力強さなど大自然の凝縮を来場者は堪能しました。



樹里安夏まつり

平成15年7月19日(土)～20日(日)

夏の恒例行事である樹里安夏まつり。アトラクション、子供お遊びコーナーなどが行われました。特にまつりの最後の抽選会は大好評でした。多くの子連れ客が緑に囲まれ夏の一日を楽しみました。





土について（その一）

★ 黒 土：関東ローム層（火山灰土）の表土です。有機質に富み軽くて軟らかい土です。保水性、保肥性がよいが、通気性、排水性はよくないので、腐葉土をたっぷり混ぜて使います。火山灰の特質でリン酸分を吸着して離しにくいため、肥料としてリン酸を多く施す必要があります。

★ 赤 土：関東ロームで黒土の下層にあります。有機物を含まない赤褐色の粘質の火山灰土で弱酸性です。通気性に欠けるほか、リン酸分については、黒土と同じ欠点があります。赤土を一定の粒径でふるい分けて団粒化したものが赤玉土です。

★ 赤 玉 土：関東ロームの中層にある赤土を乾燥させてから、一定の粒径でふるい分けたものです。ほぼ無菌の弱酸性土で通気性、保水性、保肥性に富みコンテナ用土としてたいへん優れています。

★ 鹿 沼 土：栃木県鹿沼地方に産し、関東ロームで黒土・赤土の下層にある軽石質の火山砂が風化した黄色の玉土です。鹿沼土は有機物をあまり含まない酸性土で、保水性、排水性、通気性、ともに高いことが特徴です。サツキの用の土として、普及しています。

水

★ 荒木田土：田の下層などに堆積している土です。昔は瓦や壁に使った粘質土のことです。保水性、保肥性に富み、植物がしっかり育ちます。通気性が悪く、固まりがちです。キクなどの鉢植えや花壇苗用に使います。
「東京都荒川沿岸の荒木田原に産出した土」が本来の意味と言われています。



ジュリアン
樹里安
川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」
発行日：平成16年1月1日
発 行：財団法人 川口緑化センター
〒334-0058 川口市安行領家844-2
TEL 048-296-4021
ホームページ：<http://www.sainet.or.jp/~jurian/>